

尾崎・千岩田海岸の治山施設等災害復旧事業に係る地元説明会概要

件名	東日本大震災による治山施設災害復旧事業の説明会【尾崎・千岩田海岸】
日時	平成28年3月10日(木) 19:00～19:40
場所	面瀬地域ふれあいセンター
出席者	千岩田(小山、堀井)地区ほか住民 約10名

概要

1. 説明会の目的

東日本大震災により被災した防潮堤を含む海岸防災林の復旧整備については、平成25年3月に防潮堤の構造および周辺事業について地域住民の皆様にご説明を行いました。その後、土地所有者の皆様や隣接する復旧工事との調整を行ってまいりました。

今般、土地所有者の皆様等との調整を了し、復旧計画がまとまったことから、海岸防災林の復旧工事に着手いたしました地域住民の皆様にご説明を行ったものです。

2. 主な質問・意見と回答

質問等1 防潮堤が設置されゲート(陸閘)がなくなると、海側に船を持って行くことができないため困る。陸閘がなくなるのであれば、突堤側手前に階段やスロープを設けて船を海側へ持って行ける構造、またはフックみたいなものをつけて船の出し入れができるようにしてほしい。

回答(署) 震災の時に陸閘を閉めるため何人もの被災者が出たことから、宮城県の基準として今後は陸閘を設置しないとされたことをご理解いただきたい。船の出し入れは突堤を使用すること、陸側から突堤にトラックが通れる乗越道路を設けることで住民の皆さんの了解を得ている。

回答(県土木) 船の陸揚げは突堤において、フォークリフトや離陸車の使用を考慮しており、クレーンについては管轄する部署が違うため調整させてほしい。

質問等2 防災林に広葉樹(サクラ)の植樹をお願いしてきたが可能か。

回答(県林務) 海に近い区域はクロマツを計画しており、幅が100m位の広い区域の陸側は広葉樹等を混ぜながら植栽することを考えている。また、ボランティアや植栽活動をしたい場合は対応可能なので連絡してほしい。

質問等3 防災林の幅は何mくらいになるのか。

回答(県林務) 尾崎神社側が約50m程度、一番幅が広い区域で100m程度となっている。

質問等4 砂浜は残るのか。

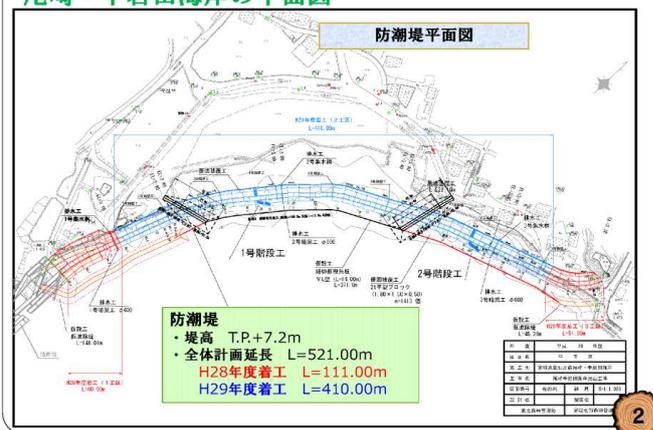
回答(署) 防潮堤の基礎を捨石によるマウンドで設置し、その上に本体コンクリートを打設して捨石で被覆する。防潮堤前面は根固ブロックを配置するため、砂浜は残らない構造となっている。

まとめ

工事が始まると資材を運搬するトラックの通行や、掘削による濁水の発生などがご心配になると考えていますが、濁水についてはシルトフェンスを設置して極力濁らないようにするなど、細心の注意を払って工事を進める考えです。

工事が進む中でお気づきの点がございましたら、遠慮なく事務所へ連絡していただければ、可能なものについては対応してまいる考えですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

尾崎・千岩田海岸の平面図



【説明会の様子】

